

令和7年度 下水道維持管理業務取組み発表会
発表概要

所属 多々良川浄化センター
発表タイトル 管廊内プロジェクター映像システムの導入について
取組の目的 見学者を処理施設に案内説明する際、これまでは、特に管廊においてはコンクリート壁や配管しかない状況で、水没している機器について口頭説明していた状況を改善し、見学者が下水処理の過程をより直感的に理解できるようにする。
取組内容 管廊のコンクリート壁を利用したプロジェクションマッピングの実施を検討し、維持管理業者の協力のもと、無理なく安価に実施し、誰でも改善が可能であることを基本として、機器を検討購入、設置した。また、映像コンテンツについては、初沈、反応槽および終沈の内部の汚水の流れや機械の動きを表現する動画を、職員自ら、日常業務で使用しているパソコン、ソフトで自作した。
取組成果・効果 今年度の小学生施設見学や下水道展の施設見学から実際に使用したところ、画面が大きいこと、水没している機器の動きを表現できたことにより、理解度、満足度が向上した。 作文コンクールの作品でも触れられており、また下水道展の来場者意見として「分かりやすかった」など、好意的な反応を得ている。 説明する側も、見学ルートのアクセントになり、施設見学の内容の充実を図ることができた。 さらに今後、次のようなコンテンツの拡張で、見学者へ施設の新たな体験を提供することができる。 ①壁だけでなく、床や壁または設備への投影 ②見学者がスクリーン上で自分の手で汚泥を掻き寄せる、自分で描いた微生物をスクリーンの中で泳がせる等のインタラクティブ（双方向）なコンテンツ開発